

# 2021年春学期「経済学と聖書」(改訂)担当:井口 泰 10:30-10:55

4月9日 コロナ危機1年:新しい現実

コロサイ3:1～4

16日 災害・疫病と経済

テサロニケ I 5:2～8

23日 K字型回復の現実

マタイ13:11～12

30日 逆説が経済を救う

ルカ 6:20～26

5月7日 脱炭素への重圧

ローマ8:19～22

14日 サイエンスと愛

コリント I 13:8－12

21日 メガ・プラットフォーマーの衝撃

ヨハネ 8:32

5月28日 グローバル・サプライチェーンの謎

ルカ 12:22～29 (訂正済)

6月4日 つまずきの石:経済危機と世界

コリント1:23

11日 待ち望むべき世界

詩編 130:5～7

18日 世界の分離対立と克服の希望

ローマ5:20

25日 新しい歌を歌えるのか

詩編 98:1

7月2日 どうしたら真理を経験できるか

コリント I 2:10

9日 新しいことが起こる

イザヤ65:16～17







1 インマヌエルの  
主イエスこそ  
敵を破り 世に勝ち、  
とらわれたる 人々を  
解き放つ 救い主。  
永遠のいのち、永遠の幸、  
与えたもう いつくしみ。

2 力強き そのみ手は  
悩む者を 励まし、  
愛に満つる み心は  
頼る者を 見捨てず。  
悲しみをも 痛みをも  
憐れみもて いやし  
たもう。

3 わが心よ、強くあれ。  
わが魂、しずまれ。  
戦いにも たじろがず  
波風にも 動かず、  
共にいます インマヌエル  
とこしえまで 支えたもう。

4 富と力、国もまた  
父の神の ものなり。  
栄えと知恵 主に帰せよ、  
ほふられし 小羊に。  
わが内なる ものすべて  
ほめたたえよ、聖きみ名。

1 ) Jesus ist kommen, Grund ewiger Freude;  
A und O, Anfang und Ende steht da.  
Gottheit und Menschheit vereinen sich beide;  
Schöpfer, wie kommst du uns Menschen so nah!  
Himmel und Erde, erzählet's den Heiden:  
Jesus ist kommen, Grund ewiger Freuden.

2) Jesus ist kommen, nun springen die Bande,  
Stricke des Todes, die reißen entzwei.  
Unser Durchbrecher ist nunmehr vorhanden;  
er, der Sohn Gottes, der machet recht frei,  
bringet zu Ehren aus Sünde und Schande;  
Jesus ist kommen, nun springen die Bande.

3) Jesus ist kommen, der starke Erlöser,  
bricht dem gewappneten Starken ins Haus,  
sprengt des Feindes befestigte Schlösser,  
führt die Gefangenen siegend heraus.  
Fühlst du den Stärkeren, Satan, du Böser?  
Jesus ist kommen, der starke Erlöser.

4) Jesus ist kommen, der Fürste des Lebens,  
sein Tod verschlinget den ewigen Tod.  
Gibt uns, ach höret's doch ja nicht vergebens,  
ewiges Leben, der freundliche Gott.  
Glaubt ihm, so macht er ein Ende des Bebens.  
Jesus ist kommen, der Fürste des Lebens.

5) Jesus ist kommen, der König der Ehren;  
Himmel und Erde, rühmt seine Gewalt!  
Dieser Beherrscher kann Herzen bekehren;  
öffnet ihm Tore und Türen fein bald!  
Denkt doch, er will euch die Krone gewähren.  
Jesus ist kommen, der König der Ehren.

「人々が「平和だ、安全だ」といっているとき、……突然の破滅が彼らを襲います。それを逃れることは、決してできません。……ですから、ほかの者たちのように眠っていないで、目を覚まし謹んでいましょう。私たちは、信仰と愛の胸当てを着け、救いの望みという兜をかぶり、身を慎んでいましょう」

私は、この聖書の下りを、10年前の東日本大震災を思い出して読んでいました。コロナ危機のなかで、私たちは、平和や安全の大事さを、身に染みて感じています。私たちは、平和や安全を、日常の当たり前のこととしていました。特に、原子力発電所の安全神話を、事実上、受け入れてしまっていた私たちは、あの時まで、まさに「眠って」いたのです。しっかり、目を覚まして世界を見ていたら、私たちに、別の未来が開けていたのかもしれないのです。

今年も4月4日に、私たちはイースター（復活祭）を祝いました。ヨハネによる福音書（20章20節）で、復活したイエス様は、空になった墓地で、マグダラのマリアの前に現れました。最近発見された古文書では、古代教会には、紀元3世紀ごろまで女性の司祭がいたことが明らかです。彼女たちこそ、イエス様の十字架と復活を伝える大事な役割を担ったからです。

同日、弟子たちの前に現れたイエス様は、「平安があなた方にあるように」と言われました。その8日後に現れたときも同様です。イエス様は、テイベリア湖で弟子たちが魚をとる時に現れて、共に食事をされたのです。

十字架による処刑という極限の出来事のあとで、弟子たちは、ユダヤ人の迫害の危険のなかで、再び、魚をとって生きる、新しい日常にもどっていったのです。まさに、「New Normal（新しい日常）」の時代が始まるのです。

まさに「新しい日常」において、恐れを克服することは、最も大きな課題です。感染のリスク、病気への恐れ、仕事の上の困難、経済や経営の危機など、恐れは尽きることがありません。しかし、恐れに負けることなく生きなければ、平安はやってきません。

こうした恐れが、私たちから、希望を奪い、勇気を奪い、喜びを奪っていきます。しかも、自分の恐ればかりにとらわれて、世界中で起きている困難や危機や悲しみに対して鈍感になります。

人類は、森林を伐採し、動物を抹殺し、環境を破壊しました。そして災害、疫病、飢饉、戦争や内戦を起こし、危機に繰り返し直面したのです。こうして、王国や都市が繁栄し滅亡したことを、聖書は記録しています。私たちは、コロナ危機のなかで、ようやく、そのことに気づき始めています。その時代に生きた人たちと、心が通じるようになったのです。

実際、現代の危機は、世界的な規模で起きているです。世界的な感染症の危機は、地球温暖化による気候変動の危機や、世界的な経済危機と同時に起きているのです。

国連が、持続可能な発展開発目標 (SDGs) を掲げようとも、危機を繰り返す資本主義経済の未来を保障しているわけではありません。永遠の成長を求める経済システムと両立可能かどうか問われています。

神様が私たちを見捨てられたと思い、あきらめる必要はありません。世界で起きていることに、しっかり目を覚まし、不安を超えて、愛を持ち、勇気を出しましょう。新たな経済システムを生み出すビジョンを求め、日々できることから、力を合わせて取り組んでいきましょう。